

血液検体検査

最新の検査機器、コンピューターシステムを導入し、主要な検査項目について24時間いつでも結果を報告できるよう体制を整えています。

救命救急センター、救急外来および外来診察前検査にも十分対応できるよう、正確かつ迅速な報告に努めています。

生化学・免疫検査

主に血液検体を遠心分離し、その上清（血漿・血清）中に含まれる成分を最新の分析装置で測定します。

血液を分析することにより、肝臓や腎臓の状態、免疫機能、エネルギー(栄養分)の運搬などを知ることができます。

また、移植医療に対応した免疫抑制剤などの薬物血中濃度測定、甲状腺ホルモン検査、糖代謝、脂質代謝測定など、さまざまな検査をおこなっています。



生化学検体自動分注装置・搬送ライン



生化学多項目分析装置



薬物濃度測定

代表的な検査項目と意義

肝機能検査

代表的なものにAST・ALTがあります。この酵素は、肝臓の細胞が障害を受けた場合に血液中に漏れ出す(逸脱)ことにより増加します。

腎機能検査

血液のみでなく、尿中成分の分析もおこないます。血中クレアチニンはクレアチン(アミノ酸の一種)の代謝物で腎障害があると増加します。筋肉量で異なるため男女差があります。

腫瘍マーカー

代表的なものにAFP・CEA・CA19-9・PSAがあります。腫瘍マーカーは癌が確実に診断できるわけではなく、診断の補助や治療効果の判定に用いられます。

感染症検査

ウイルス性肝炎やHIVなどの検査があります。抗原や抗体の量を測定するため、測定時期によっては、感染していても陰性の結果がでる場合があります。

血液検査

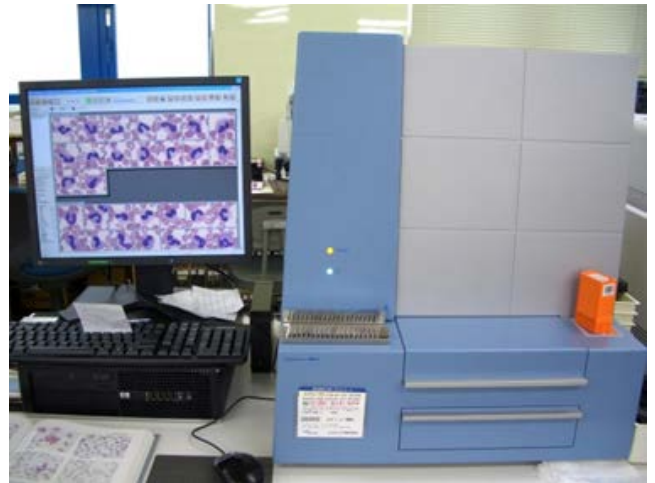
主に、血液中の白血球数、赤血球数、血小板数、ヘモグロビン量などを測定し、貧血や炎症がないかどうかを調べます。

凝固検査では、血液の固まりの良さ(凝固能)や血液の塊の溶けやすさ(線溶能)を検査します。

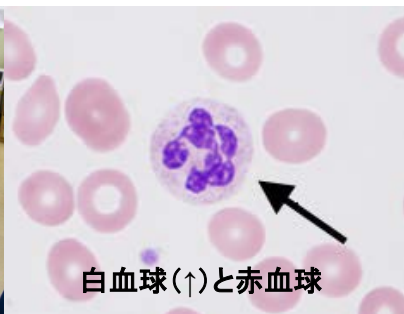
また、白血球細胞の分類(写真)や遺伝子検査、骨髄細胞などの検査もおこなっています。



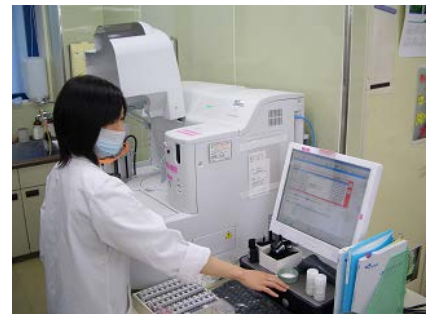
多項目自動血球分析装置・搬送ライン



自動顕微鏡・自動血液細胞分類装置



顕微鏡での検査と血液像



凝固検査装置